

目次

まちづくり物語
ええとこ・わがまちKASHIWARAプロジェクト報告書

第1部

まちづくり物語

まちづくりの実践的でユニークな取り組みから学ぶ

01	地域住民と作るまちづくり読本	西上 ありさ	04
02	姫路城につづく「地域の宝」発掘	玉田 恵美	06
03	「まちなかバル」ブームの仕掛人	綾野 昌幸	08
04	吹田市民がつくる名物「すいたまん」	田中 俊子	10
05	「ぼくらのワイン」で郷土愛を	木村 茂	12
06	「ブランド戦略」に取り組む	市川 克美	14
07	子育て世代を意識したまちづくり	柳生 久理子	16
08	チャリティネット森が好き!	寺川 裕子	18

まちづくりのコンセプトとノウハウから学ぶ

09	柏原に行列ができる方法を教えます!	狩野 哲也	20
10	まち情報の発信を「まちの力」に!	大村 吉昭	22
11	地域の課題は住民が解決する!	中島 敦貴	24

これからの柏原へ向けて

12	「ヒトのつながり」がもっとも大切	久 隆浩	34
----	------------------	------	----

第2部

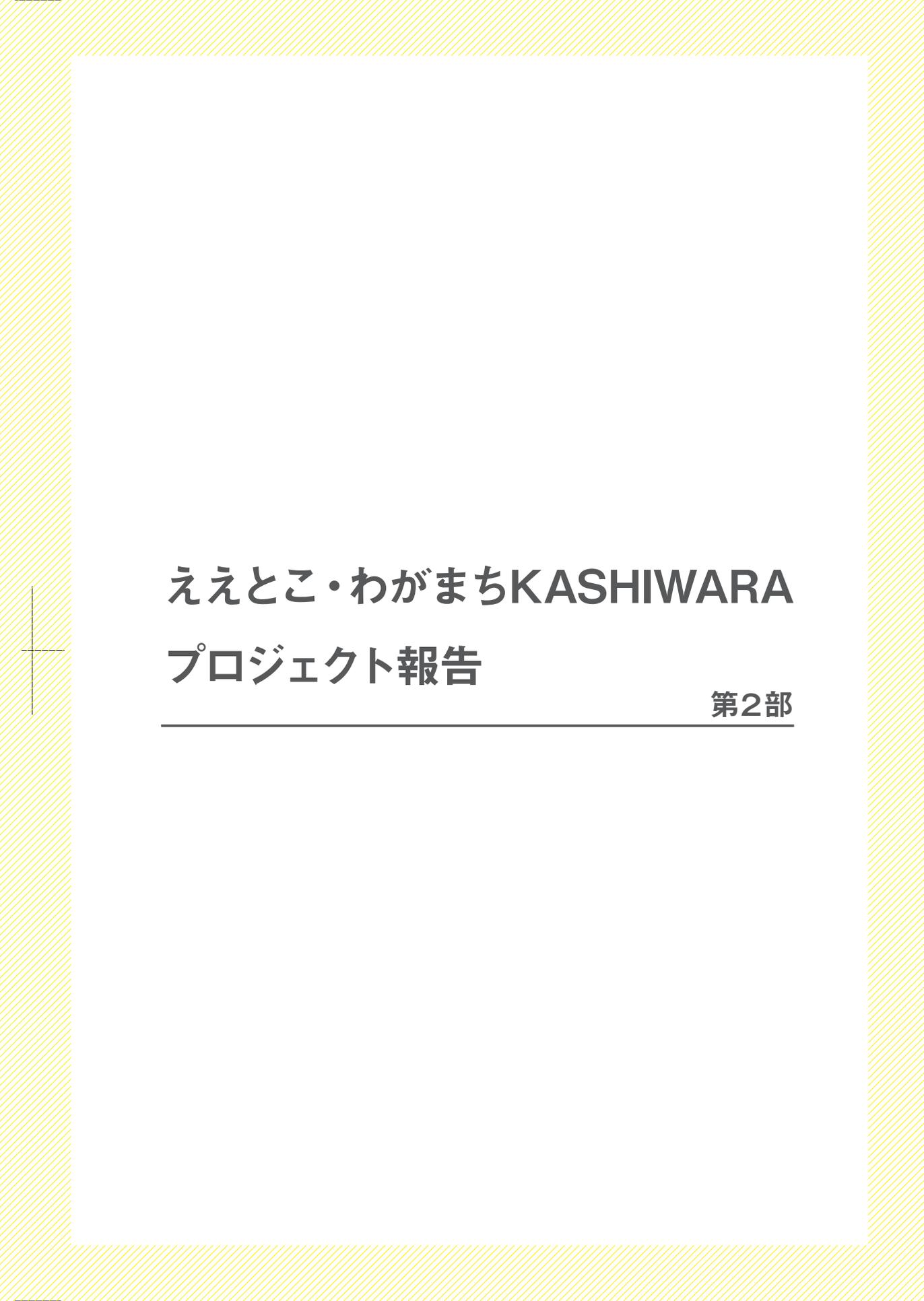
ええとこ・わがまちKASHIWARAプロジェクト報告

1	まちづくり人創生塾	36
2	ええとこ・わがまち円卓交流会in KASHIWARA 2013	39
3	柏原市民ファンド・寄付・基金の設立研究	42
4	柏原ええとこ・わがまち自慢	44
5	「ええとこ・わがまちKASHIWARA」プロジェクト	46
6	ええとこ・わがまちKASHIWARA委員会設置要綱	50

第3部

柏原で元気で頑張るまちづくり団体

イーゼル芸術工房	NPO法人かしわらいネット	52
柏原おいなーれガイドの会	柏原の郷土史を探る会	53
太平寺わしらのまちづくり委員会	オガタ通り商店会	54
安全なお米・自然食品(根っこや)	サロン・おむすびころりん	55
柏原市災害ボランティアコーディネーター会	EMふれんず	56
柏原ピエンナーレ作家会	かしわら水仙郷を育てる会	57
イエローライン・プロジェクト	くるくる	58
おいなーれ柏原ネットワーク	NPO法人まちづくりプロジェクト	59



ええところ・わがまちKASHIWARA プロジェクト報告

第2部

1 まちづくり人創生塾

柏原のまちをもっと元気に、生き活きとさせていきたい、柏原でNPOや各種グループ・団体など色々な活動をして、頑張ってまちづくりを進めていきたい。

創生塾は、“まちづくり人”（まちづくりやってみようかと思う人）を育てるための講座です。「育てる」といっても、いっしょに考え、ワークショップをし、まちづくりにつながる体験を提供し、新しいまちづくりのヒントを探ることを考えています。（まちづくり人創生塾パンフレットから）

1 参加者：36名

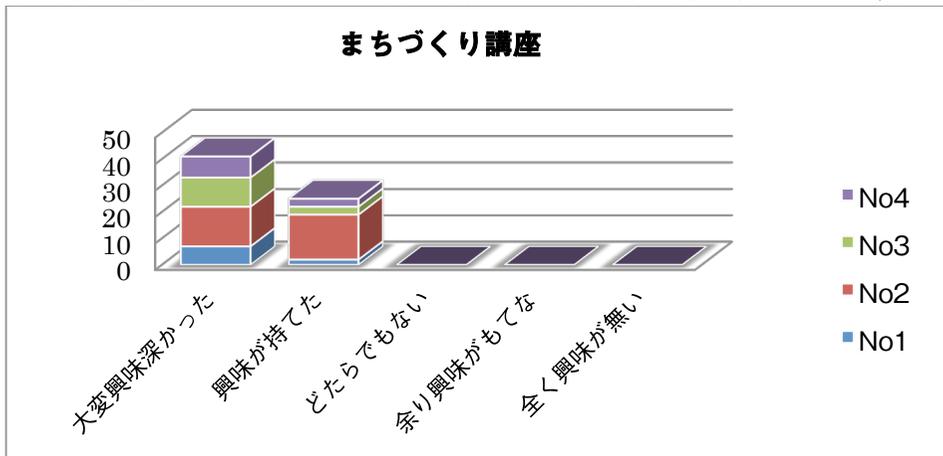
修了者：18名（講座の2/3受講者完了者）およそ5割程度

問題点：開催日程（毎週土曜日午後、月1回→集中開催、平日夜の希望も）

参加層：若者、女性が少ないのが課題

2 塾の内容

- ・ 円卓交流会も含め6回開催（第1回から4回までのアンケート結果）
- ・ 参加者の塾に対する評価は非常に高い：全ての参加者が興味深い（図1）



3 塾生の声（アンケートの自由意見）

（まちづくりの哲学・思想・手法）

- ・ まちづくりは人との関係ネットワーク（ゲーム、ワークショップ形式が好評）
- ・ 「まちづくりを楽しくやる」原点に戻ったような気持ちで元気をもらった
- ・ 仲間づくりの大切さ、海士町/家島町の女性パワーには驚きです
- ・ 「ゆっくりと時間をかかえてするまちづくり」という事が印象的だった
- ・ 事業には「想いをもつ」事がもっとも重要。そこではじめて企画が考えられる
- ・ 公務員にもこんなユニークな人がいるのだと感心した。（伊丹の職場風土か）
- ・ まちづくりへの熱意、何とかしなければの想い。
- ・ ミーティングの大切さ、組みたい人によって成功が生まれる
- ・ みんなに最終「良かったね」といわれることが一番の達成感。

（まちづくりの人・対象）

- ・ 他市のまちづくりの事例、特に高齢化の先進地域に学ぶべきことが多い
- ・ リュックサックフリーマーケットは色々な所で利用できるヒントがある

- ・ 街に賑わいを作るためには、駅の近くで人通り道での活動場所の確保と、地域に目を向ける熱意の人が大切かと思った。
- ・ 柏原イイネットの柏原の新しいものの発掘発信が楽しみだ
- ・ グループで畑（菜園）をし、市民を巻き込む農の役割はカギを握る
- ・ お金を儲けることが一番しんどい、むずかしいね。
- ・ 地産地消でマーケットを見据えユーザー拡大と生産販売を結合戦略がすごい
- ・ ゆっくりと商店街を歩いたのは始めて。趣のある写真館、ミシンや古い時計も修理する店、ライブなスナック等新旧頑張る店の存在を知り応援したくなった
- ・ 町ウオッチングしてみて、もっと活性化の対策を図らねばと思った。みんなで商店街を歩いて回ったのも意義があった。

（塾の課題と今後の対応）

- ・ まずは塾生同士のコミュニケーションを深め、できるだけ早く共通のテーマで議論を深め、提案書/企画書が作成できるレベルまで持ち込めばよい
- ・ NPO団体が共有している基本問題にヒントを与える話であり、具体的でとても良かった。他のNPOの人にも聞かせてあげたい。
 - ・ 講師は若い（20代、30代）塾生の年齢は60代・70代、経験豊富な人たちばかり、教えてもらうのではなく、共に学ぶ塾の形が求められる
 - ・ 講師から失敗談も聞きたかった、講師陣との今後つなげる機会の開発
 - ・ 実体験が大切（まちなかバルに、実際に自ら参加し、楽しいと思う経験が大切）
 - ・ 他の地域のまちづくりプロジェクトチームとの交流も大切
- ・ NPOと行政とのギャップが大きすぎつなぎようがないのをどう解決するのか

4 今後の対応課題と方向

- ・ 内容の活用：今回の塾の興味深く示唆に富んだ内容を、参加者だけでなく、広く生かす必要→プロジェクト報告書を関係者（行政も含む）に配布・活用を
- ・ まちづくりテーマの具体化：今回の塾での成果を柏原のまちづくりに具体的な生かしてテーマの具体化を図っていく必要がある。→（地域良さの発掘発信、商店街の活性化、まち中バル、リュックサックマーケットなど）
- ・ 塾参加者との交流促進：塾参加者とは、今後のまちづくり人として各団体との連携を拡大強化する。→柏原ビエンナーレ、柏原いいネット、災ボラ会など
- ・ 塾の講師陣との連携：塾の講師陣を柏原のまちづくりアドバイザーとして今後のネットワーク交流を推進→バル等地域プロジェクト、イベント参加及び交流



柏原まちづくり人創生塾カリキュラム

<p>第1回 10月27日(土)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●開塾・オリエンテーリング ●まちづくりデザイン講座①中島敦貴(京都造形大大学院山崎ゼミ) ●新しいまちづくり物語A “市民と作った「まちづくり読本」： ：” 西上ありさ(studio-1 研究員) ●まちづくり地域ワークショップ①柏原の古町へ出かけよう!
<p>第2回 11月10日(土)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●まちづくりデザイン講座②中島敦貴 ●私のノウハウ教えます① “柏原に行列ができる方法を教えます” ：狩野哲也(コピーライター・おおさかキャンパス広報ディレクター) ●私のノウハウ教えます② “柏原から情報発信しています” ：大村吉昭(NPO かしわらイネット代表)
<p>第3回 12月8日(土)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●まちづくりデザイン講座③中島敦貴氏 ●新しいまちづくり物語B “姫路城につづく「地域の宝」発掘物語” ：玉田恵美(NPO 姫路コンベンションサポート理事長) ●まちづくり地域ワークショップ② 太平寺のカタシモワイナリー社長の高井利洋さんを取材
<p>第4回 2013年 1月19日(土)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●まちづくりデザイン講座④中島敦貴氏 ●新しいまちづくり物語C “「まち中バル」ブーム仕掛人物語” ：綾野昌幸(近畿バルサミット協議会代表) ●まちづくり地域ワークショップ③ JR 柏原駅から近鉄堅下駅周辺の商店街の可能性を探る。
<p>第5回 2月3日(日) 会場：市民プラザ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●わがまち自慢円卓交流会議「おいなーれ・ええとこ・大阪かしわ ら」へ：コーディネータ：久隆浩(近畿大学教授)、スピーカ5名、 主な参加者：創生塾塾生、ええとこ委員会など団体・行政関係も
<p>第6回 3月2日(土)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●まちづくりデザイン講座⑤中島敦貴 ●かしわらええとこわがまち自慢：ワークショップ ●塾修了式

時間：13:30～16:30、会場：フローラルセンター（市別館3階）：第5回円卓交流会以外



2 ええとこ・わがまち円卓交流会 in KASHIWARA 2013

柏原がすきな、みなさん。ちょっと、**集まって～や。**

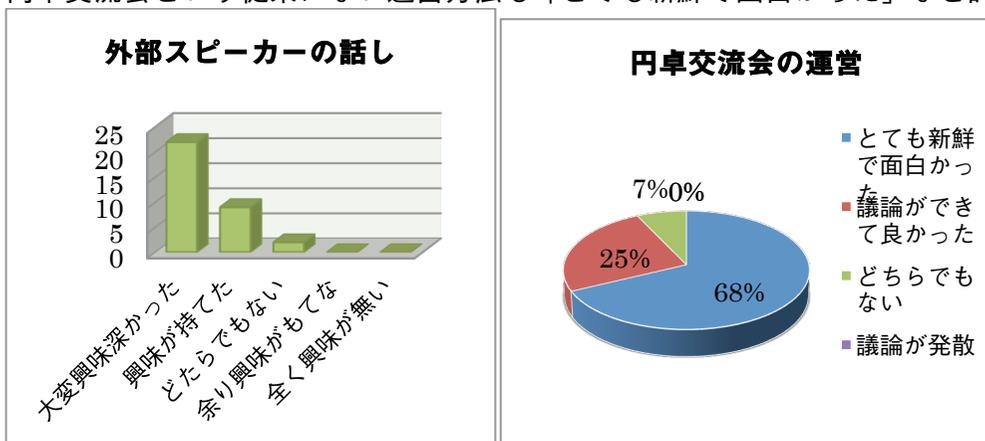
もの、人、自然、お店、団体、企業など地域の保有する多彩な資源を利用して、元気に楽しく新しいまち作りに挑戦している皆さんが集まり、多様な情報を交換する中で、まちづくりの人と組織のネットワークを広げ、絆を強め、かしわらに新しいまちづくりの流れを作りだすことをめざします。(円卓交流会チラシから)

1 参加状況

- ・ 交流会全体の参加：約 75 名：配付資料残なし
 - ・ ネットワーク懇親会：55人
 - ・ 展示団体：災ボラ会、イエローラインプロジェクト、EM ふれんず、柏原イイネット、柏原ビエンナーレ、おむすびころりん、まちプロ
- 当初予想を上回る参加

2 交流会の内容と評価

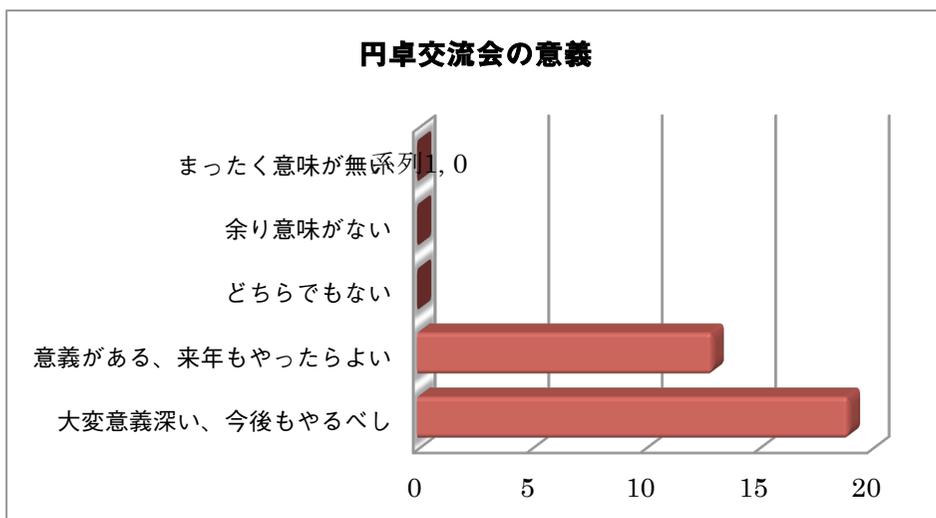
- ・ 参加者は、内容が「とてもよく分かった」「分かった」がほとんどで、好評
- ・ スピーカの話しも、「大変興味を持てた」「興味が持てた」が圧倒的
- ・ 円卓交流会という従来にない運営方法も「とても新鮮で面白かった」など評価



(地域の活動野交流)

- ・ 「僕らのワイン」が特に関心が高かった
- ・ 地域では根っこや、近鉄国分駅、宮脇書店、オガタ通り商店街、河内学が好評
- ・ 柏原のパワーと柏原を愛する気持ち、盛り上げようとする気持ちを沢山感じた
- ・ 柏原でいろいろの方が色々なことをされているのがわかりビックリした
- ・ 各団体が柏原を良くしていこうという熱い思いが感じられ、多に触発された
- ・ 人とのつながりが大事だと気づかされたし、人とつながったと思います
- ・ ものすごく刺激的でコウフンしている
- ・ 市内市外問わず交流できたのが、非常に嬉しく刺激的な一日でした
- ・ まちを活性化するための智慧や悩みを共有でき、各自の立場で生かす機会実現(運営について)
- ・ できるだけ全員の発言を引き出す様努力が必要、懇親会では「本音」聞いた

- ・ 柏原を愛し発展させることを考える事のルールがあるのだと思った
- ・ 各テーブルからの話があったものの、第一部では議論がまだ不十分
- ・ 「議論の発散」が、逆にこれからのまちづくりのヒントを沢山はらんでいる
- ・ 自己紹介の今日の服装のセールスポイントが良かった、場がなごやかになった
- ・ 最後の懇親会の片付けまでみんなが協力して行った、楽しかった反映かも。
(意義と課題)
- ・ 円卓交流会の開催の意義は深く、来年以降の継続発展の期待が多い。



- ・ もう少し議論があれば良かった、発表より議論をもっと引き出すようにした方が
- ・ もっと行政や商工会などの参加者が欲しかった。
- ・ 次回は内容を変えて、・・・(市民が住んで良かったと思えるまちづくりについて、例えば「市民憲章」の内容について論じ合うとか。)

4 今後の対応課題と方向

- ・ 円卓交流会の内容を報告書として、関係者（行政も含む）に配布、活用
- ・ 交流会参加者との交流促進や外部スピーカーを柏原のまちづくりアドバイザーとして、今後のネットワーク交流を推進していく。
- ・ 今後の展開については、課題の対応も含め「ええとこ・わがまち柏原委員会」や、「柏原おいな一れネットワーク」等の各団体と議論し、方向を出していく。



円卓交流会プログラム

ええとこ・わがまち 円卓交流会

in KASHIWARA 2013



柏原がすきな、みなさん。
ちょっと、集まって～や。

日時：2月3日（日）午後1時受付開始
場所：柏原市民プラザ（JR柏原駅前）

もの、人、自然、お店、団体、企業など地域の保有する多彩な資源を利用して、元気に楽しく新しいまち作りに挑戦している皆さんが集まり、多様な情報を交換する中で、まちづくりの人と組織のネットワークを広げ、絆を強め、かしわらに新しいまちづくりの流れを作りだすことをめざします。

第1部：円卓交流会：午後1時30分～4時30分

コーディネーター：

久隆浩さん：近畿大学総合社会学部環境系専攻教授：hisa@socio.kindai.ac.jp

スピーカー

吹田まん開発、「ぼくらのワイン」で町おこし、わがやネヤガワブランド、まちづくり人創始塾など多彩なまちづくりを進めておられる人をお招きしています

吹田名物すいたまん塾：田中俊子さん：おなか吹田プロジェクトすいたまん塾長、野菜料理教室講師 suitamanjuku@yahoo.co.jp

「ぼくらのワイン」で町おこし：木村茂さん：門真あかりの会代表、木村酒類販売会社社長 kimura-syuhan@feel.to

わがやネヤガワブランドプロジェクト：市川克美さん：寢屋川市前ブランド戦略室長、現寢屋川市市民生活部部長兼産業振興室長：ka111@dream.ocn.ne.jp

地域のスピーカー：

柏原もんづくり、楽しい地域魅力の発掘発信、こどももおとなも元気になるひと作りをめざし、元気で楽しくまちづくり活動している人たちが集まります。

- ・子育て支援の読み聞かせお話し会：宮脇書店
- ・近鉄駅長お薦めウォーキングにより切り拓いたもの：近鉄国分駅
- ・商店街の活性化に向けた元気な取組み（スタンプラリーなど）：オガタ通り商店街
- ・アートイベントによる地域の価値の再発見：柏原ビエンナーレ
- ・河内学に取り組む学生の地域への想い：関西福祉科学大学
- ・ビリケンと共に柏原から全国に音楽発信する芸術集団：イーゼル芸術工房
- ・子供と共に食と農の体験活動：根っこや
- ・これからのまちづくりには減災活動が重要：災ボラ会 など

第2部：ネットワーク懇親会：午後5時から午後7時まで：(会費制)

参加者みんなで、ネットワークを深め・広げる楽しい集いです。

懇親会チケット制（前売り1500円）

展示コーナー

まちづくりに取り組んでいる参加団体・協力団体の、これまでの取り組みや今後のイベントなどの紹介を、ポスター、写真などで展示をしています。こんな活動をしている団体があるのかと、新たな発見に遭遇するかもしれません。ぜひ、ご覧下さい。

2012.12.10 柏原まちづくり井戸端会議：スピーカー：柳生久里子

3 柏原市民ファンド・寄付・基金の設立研究

1 市民ファンド研究にあたって前提整理

(事業費の確保)

NPO法人など多くの地域でもまちづくり活動を展開するに当たり、その活動資金に悩まされる。ボランティアの人も、全て手弁当ではやりきれない、せめて事業活動費ぐらいは確保したいということになってくる。

(「基金」「寄付」「助成」の手法)

事業活動費を稼いでいる NPO 法人等の例は、「公的な委託事業を確保」、「地域・テーマのビジネスモデルの実現による資金確保」、「公的又は民間の助成金・補助金の確保」の3つのタイプがあるが、今回は事業活動費の新たな方法の1つが「市民ファンド」ではないかと考えた。

このスキームが一般化すると、単なる活動事業資金の確保といった面だけでなく、積極的により市民活動は活性化し、多くの制約を持つ行政と異なり、成熟した社会に貢献できる可能性が高まるのではと考えその役割・実行性を考えるものである。なお、「市民ファンド」という言葉がまだ定着しておらず、投資的意味合いでリターンを期待されるイメージがあることから「基金」、「寄付」を使用する。

(基金・寄付の成立要件)

- ① 資金管理の問題：この資金管理と、使用目的に沿った使用証拠（領収書）、並びにその公表の問題でそれなりの運営管理団体の信頼性が求められる。しかし、一般の任意団体では資金管理の公表への対応の必要性の意識が薄く、方法も分からないので取り組みが難しい事による。従って、これを補完するため、活動団体の活動内容も合わせ公表しやすい標準フレームを行政などが用意し、呼びかけ助ける必要が有効と思われる。
- ② 基金・寄付への呼び掛け：市単位で、基金・寄付の一定基準を作り、対象事業の一欄表を作成し、市民に呼び掛ける。呼びかけは、ネットと各市の広報を使う事を推進すべきで、年二回ぐらい記載の募集と特集ページを作ったらよい。
- ③ ノベルティの問題：寄付行為に対して、寄付者にどのように感謝の気持ちを表すかという問題が、なによりも寄付を集めるのに必要になってくる。このノベルティ作成の費用が助成されるならこの活動はやりやすくなる。

2 寄付・基金の設立5つのプランの提示

ワーキングチームにより具体的な「寄付基金の設立プラン」案を5つ作成した。

① 「柏原水仙郷を育てる基金の創設」(案)

「かしわら水仙郷」を柏原市民の健康で楽しめる柏原の1つの名所としつつ、高尾山全体を、四季いつでも市民の安全で憩う場所にすべく構想を推進する事業に、広く市民からの支援事業費を集める創設プラン

② 「柏原にぶどうの名物を作ろう基金の創設」(案)

柏原市の知名度を上げるため、且つ100年の歴史のあるぶどう産業(地場産業)とを結びつけた「名物」を作ろうとする企画プラン。どこの自治体でも取り組んでいる普遍的なテーマであるが、民から「プラン」を提出することによ

り、その起爆剤を目論むもの、市民と行政をどのように巻き込むかが課題

③ 「柏原ホット&パワースポットリーフレットをつくろう基金の創設」(案)

柏原の地域資源の紹介によりまちの魅力をアピールし、まちづくり活動に生かそうとする企画プランで、立ち上げまでの資金ニーズを目的としているもの

④ 「緑の木とアユのまち創出をめざす(循環型古紙再生)基金」(案)

緑の「木」が経ち並ぶ街づくり、大和川の天然「アユ」の再生を目指して、古紙回収スキームを活用して得られた資金を基金化し、緑化や河川環境の改善に活用するプランで、古紙という現物での寄付が資金作りのスタートとする

⑤ 「柏原市いきいき街づくり基金」(案)

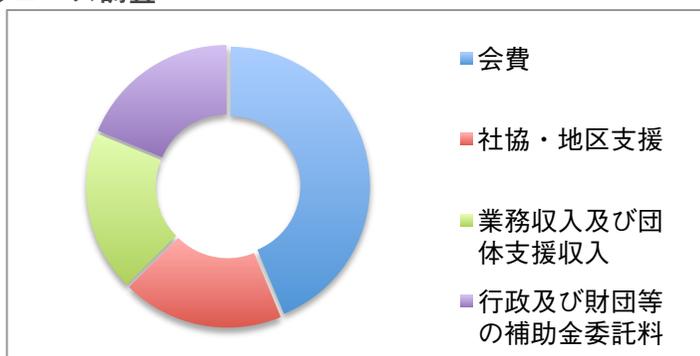
優れた街づくりプランと具体的に結び付けるプランを寄付者に事前に提供することにより、集まる寄付金の一層の有効活用ができる、まちづくりに取り組むNPO活動と活動団体の資金にもその寄付金を助成しようとするプランで、まちづくり活動の中間支援的役割を行政が担うもの

以上、5案については、次年度以降に各基金案に関してPRし、関係団体等との調整を図り実現をめざしていく。

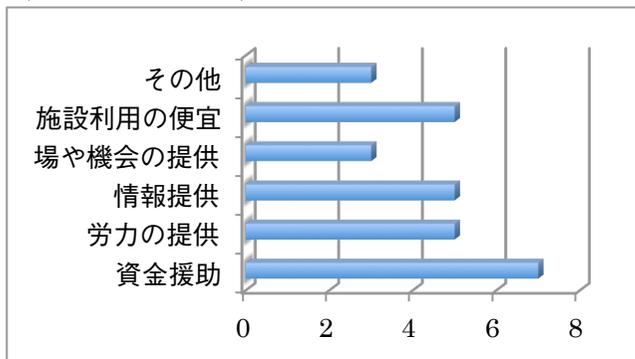
3 まちづくり活動団体等のニーズ調査

(活動経費の確保)

→会費をベースにしている組織がほとんど新たな事業活動費の確保が課題



(活動支援の種類)



→資金援助のニーズは高い。さらに中間支援的なアドバイザー、常勤職員、情報資料管理事務所、常設サロン、情報提供など共通したニーズが存在

「市民ファンド創設に関するアンケート」(8団体から回収:2013年2月実施)

4 各地域の基金寄付等の事例調査

「チャリティネット森が好き」(2013.17:ファンドセミナー:寺川裕子さん)をはじめ先進的な取り組みが進んでおり、引き続き調査研究が不可欠である。

4 柏原ええトコわがまち自慢

「あなたの好きが、みんなの好きに変わる！」をキャッチコピーに、地域の資源・資産を戦略的に市内外に発信する中で、まちづくりのネットワークの促進及び地域の活性化を図ることを目的としています。（「ええとこ・わがまち KASHIWARA トリプル大作戦」）

1 H&P スポットの柏原物語としてのシリーズ化

ええとこ・わがまち KASHIWARA をアピールするため柏原の魅力ある資源の中から、これまでまちプロが主体的に取り組んだテーマを抽出し、ホットスポット&パワースポットのモデル開発を行い、トリプル大作戦のイメージスタイルを構築する。モデルテーマとしては、柏原が鉄道写真のホットスポットゾーン、都会の冬のオアシスである柏原水仙郷の2つをとりあげ柏原物語シリーズ第1弾として製作した。



ホットスポット in KASHIWARA
第1号：鉄道物語
第2号：水仙郷物語
（各2000部印刷）

活用にあたっては、市外配布の重視、市内でのファン層の拡大をねらった活用をすすめている。

今後の計画については、「亀の瀬、高井田古墳群、柏原船」歴史に焦点を当てたものと、提案内容にもある「ぶどう」をはじめとするテーマを元に、学生など若い人の参加も得て、ホットパワー&パワースポットチームができたなら有識者やアドバイザーと共に、柏原地域の取材を実施し計画的な取り組みを行っていく予定である。

2 ええトコわがまち自慢の抽出ワークショップ

まちづくり人創生塾（第6回）の塾生からわがまち自慢を抽出するワークショップを開催した。具体的には、まちの良さ{水色・緑色}と問題（赤色）を塾生15名がそれぞれポストイットに書き出し、それをグルーピングした後、解決提案（クリーム色）を記入し、みんなで整理をした。

良さでは、山・川・風景といった自然が圧倒的に多いが、交通、産業、歴史と続く。一方、コミュニティや田舎といった点には問題点が指摘されるなど、短い時間の作業だったが日常の柏原の現状や課題を反映した結果となった。

今後は今回のワークショップの整理を踏まえ、テーマ別にワーキングチームで議論し、「集める・磨く・活かす」トリプル大作戦に繋げていく予定である。



3 「ええトコわがまち」募集に関する活動の課題と今後の方向

1) 「ええトコわがまち」の提案内容

分類すると、自然、景観、伝統文化など現状のものの発掘アピールが多い。しかし、自然環境の再生や商店街の活性化、ぶどう文化の復権など社会課題の解決やまちづくりにつながるものも存在する。

特徴的なものは、「サンヒル柏原」に見られるように集客施設として、組織的なブランドアップ戦略を内部のみんなで考える取り組みも存在した。個人だけでなく、色々な団体等でこんな取り組みが大切である。

2) ニーズはあるが顕在化できていない3つの問題

募集による提案数が少ない（計29件 2013.3.9 現在）原因は

①提案したらどんな良いことがあるのか？

→アウトプットが見えない

→素晴らしい、賞金か賞品が貰えるのか

②どんな提案をすればよいのか？

→テーマが何でもよいのでは漠然としていて、具体的なイメージがわからない

→誰でも参加できるのはよいが、ターゲットを絞ったらよい

③提案するのが意外とめんどうだ？

→文字を書く、封筒なら宛名を書いて切手をはるなど大変

3) 活動のコアとネットワークの拡大（問題解決に向けて）

① 柏原のブランドアップに熱い想いをもちた人を集めワーキングチームを組み、発掘調査を行う

② 手法としては、ワークショップ形式で色々なグループ会合などで意識的に行う

- ・テーマ別のワークショップを多種多彩に開催

- ・団体、企業、学校等でのまちづくり提案募集を、各テーマを設定し実施

③ 多彩なメディアを活用し、ムーブメントとして行う（マスメディアからソーシャルメディアまで利用）

④ 「ええトコかしわら」ファン倶楽部を創設（バッチ、ストラップ等グッズ製作）

⑤ 広報等を利用した一般の公開募集は、継続して実施。

「ええとこ・わがまKASHIWARA」プロジェクト

プロジェクトとは：基本構想

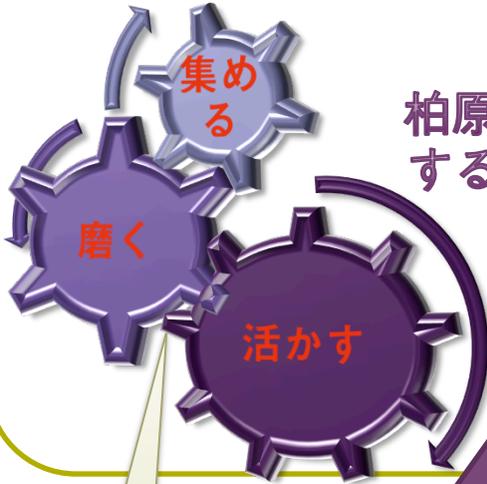
地域には多彩な資源・資産などが存在しているにもかかわらず、大阪・柏原（KASHIWARA）の地名は、ともすれば奈良・橿原(KASHIHARA)や兵庫・柏原(KAIBARA)と混同される。また、地域ブランド創造力・発信力が弱く、市民自身がわがまち柏原に魅力を感じ、地域に強い誇りを持つ風土にはない。

「ええとこ・わがまちKASHIWARA」プロジェクトは、地域に潜在する有形無形の多種多様な資源・資産（わがまちのええとこ・好きなどころ）を、市民が再発見・再認識し共有することで、わがまちとして思いや誇りを高め、それを戦略的に市内外に発信するものである。



事業の3つ手法

柏原の保有する資源を



まちづくりのカギは「ひと」
元気、ユニーク、魅力的な人材ネットワーク
まちづくりの基盤となる
地域資源の発掘・取材・整理・発信・活用のできる人材の養成

事業の3つのOUTPUT

これが意外とポイント



ええとこ・わがまち
KASHIWARA

3カ年計画
可能なものは
順次実現



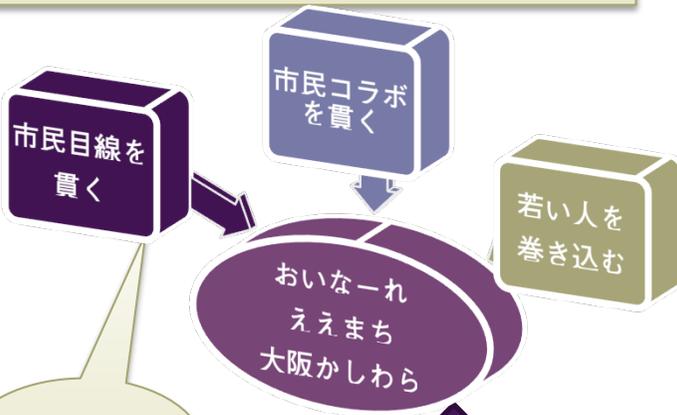
活動の成果品

事業の推進にあたっては、若い世代に響く多様な媒体、多彩な情報収集活動を組み合わせる「**集める**」、集めた情報の単なる整理ではなく、専門家のアドバイスを得ながら多彩な取材活動を組み合わせることで原石から宝石に進化できるように「**磨く**」、さらに一過的な情報発信に終わらせず、また蓄積した情報を多様な媒体を通じて活用する仕組みを織り込む「**活かす**」

- ・ 柏原の魅力地域資源のデータベースとマップ
- ・ ええとこ柏原情報誌の発行
- ・ ええとこわがまち柏原円卓交流会議の報告書
- ・ まちづくり連携交流等広場のホームページ
- ・ まちづくり人材育成研修会資料
- ・ 市民ファンドの設立検討レポート

新たな視点からアプローチ：事業の3つの軸足

推進の留意点は
：基本スタンス



- ①**事業連動**：時間と時期の制約がある中、市と府の補助/委託事業をうまく連動させ、まちプロで効率的に実施
- ②**スケジュール優先**：新しい公共に関しては事業フレームと構造が規定される為、このスケジュールを優先
- ③**ネットワーク連携**：新しい公共に関しては中間支援NPOの機能強化と役割が求められていることにより各種団体や行政の協力支援、ネットワーク連携を追求

従来行政の事業と異なるスタンス

事業の仕組み：事業構造

活動テーマ：ええとこ・わがまちKASHIWARAトリプル大作戦
(柏原市) まちづくりに頑張る団体補助：3カ年継続

活動基盤：柏原ええとこ・わがまち自慢プロジェクト
(大阪府) 新しい公共支援事業 (NPO等の活動基盤整備)：単年度

OUTPUT重視し、具体化物質化

- ①まちづくり人創成講座テキスト
- ②まちづくりネットワーク手引き
- ③まちづくり市民ファンドモデル提案
- ④ええとこ・わがまちKASHIWARA情報誌
(ホット&パワースポット編集)

事業の推進フェーズ (3カ年)

成果は具体的に示す
：事業の成果指標

- ①まちづくり活動団体の組織化
：ネットワークを構成する目標団体数
15団体
- ②まちづくり専門人材研修修了者数
：目標20名
- ③まちづくり市民ファンドモデル
：目標3案
- ④活動団体相互情報ネットワークシステムの構築
- ⑤魅力ある地域資源のデータベース化
：目標300点

年度	2012	2013	2014
フェーズ	基盤整備 モデル実施	展開 具体化	まとめ 組織整備
情報	仕組み構築 整理・蓄積	収集・磨き・活用・循環	交流発信循環 システム化
ひと	20名の人材 サポーター確保	新たに10名の 人材発掘養成	人材の拡大と 活用
ファンド	3モデル案	モデルの試行	具体化
ネット ワーク	15団体	30団体	組織基盤強化 と体制確立

具体的事業モデルを柏原のまちづくりに連動させる

- ・柏原市民の満足度向上
- ・市のブランドイメージ高揚に寄与

「ええとこ・わがまちKASHIWARA」プロジェクト トリプル大作戦：事業の進め方とスケジュール



今年度事業：	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
A：★ええまち柏原のDB/マップ 情報発信交換システム構築（We等） ：まちづくり関係団体の基盤		資料取 集	HP拡充	デー タ 整 備			
B：ええまち柏原円卓交流会義 情報交流・ネットワーク推進会議 ：ネットワークの基盤の強化			①ブレAZ 10(月) 10:30		②本AZ 3(日) 13:30		久近大 教授
C：まちづくり人創生塾： 専門家の育成事業 ：ワークショップ形式 ：まちづくり推進主体の人材基盤	① 27(土) 13:30 FC	② 10(土) 13:30 FC	③ 8(土) 13:30 FC	④ 19(土) 13:30 FC	⑤ 3(日) 13:30 (AZ)	⑥ 3(土) 13:30 FC	中島@ 京都造 形大
D：寄付基金の試行実施： まちづくり推進の財政基盤 ：市民ファンドの設立検討：研修会 ：団体アンケート ：ブランド物品試作（未実施）		WG① WG②	WG③ WG④	17(木) ファン ド セ ミ ナ ー 23出 張 コ ン サ ル	アンケ ー ト 実 施		初谷 大阪商 大教授
E：ええとこ柏原の提案募集 H&Pスポットでモデル（予定） 資源の発掘・磨きあげ（柏原市の助成 事業）	①柏原鉄 道H S物 語 :素案	②亀の 瀬P S 物語 :素案	③夫婦和 合聖地物 語 :素案	提案公募 （広報:原 稿11月 末）	提案取り まとめ	第1次 ・提案発 表 H&Spot	金峰山 修験者 岩岸
F：ええとこ・わがまち委員会			①AZ 10(月) 10:00		②AZ 3(日) 13:00	③文化C 16(土) 13:00	久近大 教授
G：その他関連： 柏原発見塾 おいなーれ柏原ネットワーク近鉄駅長 健康ウォーク関連 水仙郷ウォーク	20(土) 21(日)薬 草	13(火) 11(日) 健康げ んき		26(土)			
体制：全体総括 財政・経理、報告書類作成							

会場：FCフローラルセンター、AZアゼリア

「ええとこ・わがまちKASHIWARA」委員会

- ・学識経験者
- ・柏原市・柏原市社会福祉協議会
- ・大阪教育大学・関西福祉科学大学
- ・柏原市商工会・NPO柏原イネット（重複参加OK）
- ・おいなーれ柏原ネットワーク
- ・NPOまちづくりプロジェクト（事務局） など

連携

おいなーれ柏原ネットワーク

- ・イベント実施（近鉄駅長お薦め
イベントなど）
- ・ネットワーク構築
など

基本スタンス：事業を総合的に連携し、効果的な推進を行い、アウトプットの目的意識的な追求と実現をめざす

6 ええとこ・わがまち KASHIWARA 委員会 設置要綱

(名称)

第1条 この会は、ええとこ・わがまち KASHIWARA 委員会（以下「委員会」という。）と称します。

(目的)

第2条 委員会は、「ええとこ・わがまち KASHIWARA トリプル大作戦」と「柏原ええとこ・わがまち自慢プロジェクト」を連動させ効率的に事業等を行うことにより、地域に潜在する有形無形の多種多様な資源・資産（わがまちのええとこ・好きなどころ）を、市民が再発見・再認識し共有することで、わがまちとして思いや誇りを高め、その思いを戦略的に市内外に発信するために必要な事業を行う中で、まちづくりのネットワークの促進及び地域の活性化を図ることを目的とするものです。

(事業)

第3条 委員会は、前条の目的を達成するために次の各号に掲げる事業を行います。

- (1) ええとこ・わがまち資源の収集・発掘・磨き上げ・活用
- (2) まちづくり情報発信交換システムの構築
- (3) まちづくり情報交流・ネットワークの推進
- (4) まちづくり人材の育成
- (5) まちづくり市民ファンドの研究
- (6) その他必要な事業

(組織)

第4条 委員会は、事業の全体の方針策定と総合調整を行うものとし、別表記載メンバーをもって構成します。また、必要に応じて有識者および関係機関の担当者を招集し、意見を求めることができます。

2 委員会は、それぞれの事業テーマに応じて、部会等を設置することができます。

3 委員会の事務局は、委員会の運営に必要な事務処理を行うものとし、NPO 法人まちづくりプロジェクトが行うものとしします。

(役員)

第5条 委員会に次の役員を置きます。委員長 1名、副委員長 若干名

2 委員長は、委員会を代表し会務を統括するとともに、委員会を招集し、その議長となります。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長が不在のときは代理をします。

(役員を選任)

第6条 委員長は、委員会構成員の互選により選出します。

2 副委員長は、委員長が指名します。

(その他)

第7条 この設置要綱に定めるもののほか必要な事項については、委員会の協議により決定します。

附 則 1 (施行期日) この設置要綱は、平成24年10月27日から施行します。

2 (短縮表記) ええとこ・わがまち KASHIWARA 委員会の表記については、「ええとこ・わがまち柏原」として短縮したものも使用します。

(別表)【委員】

(学識経験者)・久隆浩 (近畿大学教授)：社会環境工学

・吉田初恵 (関西福祉科学大学教授)：社会福祉学

・初谷勇 (大阪商業大学教授)：公共経営学、NPO政策論、自治体政策論

(大学・行政・団体)・東善和 (大阪教育大学 学術部学術連携課)

・谷向みつえ (関西福祉科学大学 地域支援交流センター長)

・大井晃 (柏原市商工会 事務局長)

・北村達夫 (柏原市 政策推進部長)

・大西哲夫 (柏原市社会福祉協議会 福祉推進課)

(NPO 及びネットワーク組織)・大村吉昭 (NPO 柏原イイネット代表理事)

・梶谷政則 (おいな一れ柏原ネットワーク代表)

・三宅義雅 (NPO まちづくりプロジェクト理事長)

(事務局) 西上康雄、浅野幸治 (NPO まちづくりプロジェクト理事)

